

## Info&Report 編 外国人児童生徒支援研修会

9月29日(金)、「外国人児童生徒支援研修会」を行いました。

現在、本市の公立小・中学校に在籍している外国人籍の児童生徒は14名、そのうち8名に日本語指導を行っています。今後さらに日本語指導が必要な児童生徒が増えてきそうです。

今回の研修会には、東部教育事務所の浦田主任指導主事を講師にお迎えし、市内小中学校教員10名(管理職も含む)が参加しました。

まずセンターより、受け入れから日本語指導までの流れを簡単に紹介しました。

続いて講師より、それぞれの段階で気を付けることを具体的にお話しいただきました。

「編入学の知らせは、ある日突然やってきます。ファーストコンタクトである面談で気を付けることとして、通常の日本籍の児童生徒と違い、『日本の学校生活・ルール』を全く知らない場合もあります。給食・掃除・持ち物等を丁寧に知らせると共に、宗教・食べられないもの・これまでの養育歴や将来の進学先等、本人や保護者との面談でいろいろと聞いておくとその後の指導計画の編成等もスムーズに行えます。なにより、面談で親身になって聞いてくれる学校に、保護者は親近感や安心感をもちます。」

「日本語指導が必要と判断したら、【個別の指導計画ア・イ】【特別の教育課程の編成・実施報告】などの指導計画を作成します。」

「本題である日本語指導では『日常会話と、学習で使う言葉は違う』ということを念頭に置かなくてはなりません。友達とすらすら話せているようでも、教科書が読めなかったり、書いてある学習用語が全く理解できていなかったりすることもよくあります。その上で、サバイバル日本語からスタートし、本人の日本語能力の段階をみながら、指導を進めていきましょう。」

「外国人児童生徒の受け入れでは、校内の組織作りも大切です。受け入れが決まってから体制を作るのは逆に大変です。いてもいなくても年度当初から『外国人児童生徒担当』を分掌として位置付け、チームを作っておく必要があります。」

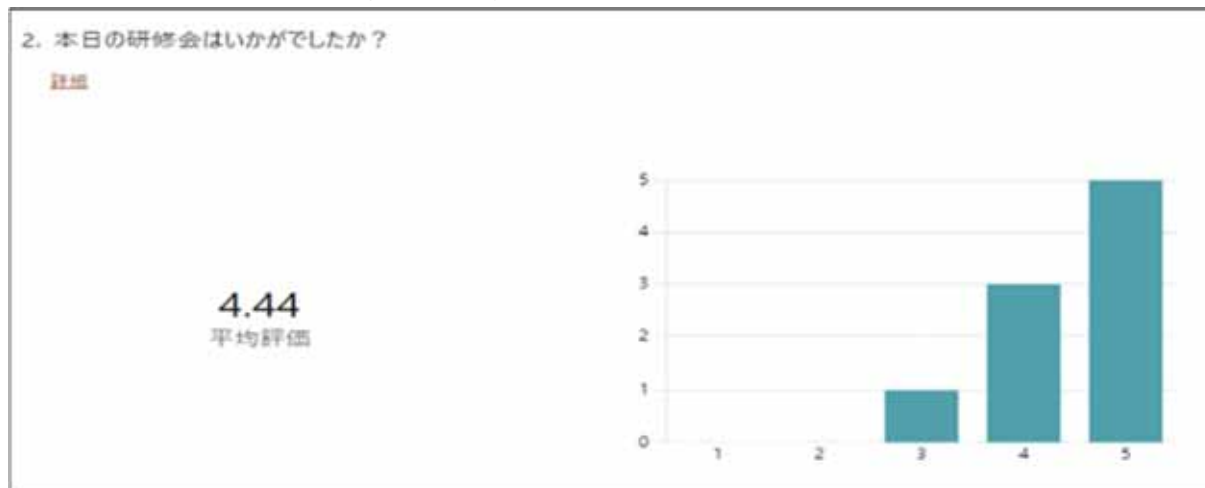
「最後に、生活指導面も改めて日本の学校生活のルールを一つ一つ理解してもらう必要があります。健康面安全面のことから交通ルール、日本の習慣などなど、児童生徒本人だけでなく、その保護者にも丁寧に伝えていく必要があります。」

このように多岐にわたり、教えていただきました。



滑川市では、外国人児童生徒が今後ますます増えていくことが予想されます。このような内容の研修は、初めてでしたが、お配りした資料は、Teams にすべて載せてありますので、この研修会の内容をぜひ各校で広めていただき、早速の準備・対応をお願いします。

## 5 事後アンケートより (9名回答)



### 感想

<p>先生方との情報交換の時間が大変有意義でした。ありがとうございました。</p>
<p>外国人を受け入れた経験がなかったので、流れや必要書類を知ることができてよかったです。また、体験談も聞くことができ、大変参考になりました。</p> <p>しかし、やはり、制度や受け入れ態勢の整備はとても必要だと思いました。何が足りていて、何が必要なのかをみんなで整頓することが大切だと思いました。</p> <p>大変勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>昨年度の本校への外国人児童の編入は、4月に入ってから出た話だったと思います。突然やってきたという感じでした。</p> <p>何年か継続して行い、その突然に備え、関係しそうないろいろな立場の方に参加していただき、どんな書類が必要なのか、どんな学習方法があるのか、市内で詳しい方(経験のある方)はどなたなのかを知っていただくのもよいかと思いました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>外国籍児童の受け入れについて、学校がすべきこと、管理職がすべきことが具体的に分かり、大変有意義でした。</p> <p>学校で、周知する必要がある内容ばかりでした。</p>
<p>外国人を指導ためのテキストなど、具体的な方策も研修したいです。</p>
<p>とにかく人手が足りない。</p> <p>制度をいくら整えても、それができるかどうか、現場と理想はかけはなれている。</p> <p>外国人の子どもを取りこぼしてはいけないのは本当にそう思うが、日本国籍の埋もれていく子どももいるのも事実。</p> <p>子ども同士で自由に触れ合い学び合える時間があればとても良いように感じた。</p>
<p>今回の研修会では、市全体として共有していけるものをたくさん提案してもらい、今後突然外国人児童がきて対応するときに役立つと思いました。特に、資料 1 枚目の「受け入れの流れ」は見通しがたります。</p> <p>今後もセンターを中心に滑川市みんなで役立つもの、良かったものを共有していく形が大事になると</p>

思いました。実際に使ってみることで良いものがあるからです。一人一人の実態に合わせて多様な資料が必要になります。よろしくお願いします。

浦田先生の話にもありましたが、学校生活、行事一つ一つ、私たちのあたりまえが当たり前でないことをしっかり教諭が受け止めていないと家族やその子のいろんな困り感が大きくなります。いつでも相談できる体制、連携をとってあげることが大事だと痛感しています。

また、児童生徒の進路、将来の見通しは重要です。保護者が今後どうしていくのか、日本で生きていくのか、 年後に帰るのか、願いや希望をしっかり受け止めることが教師側の構えを決めます。その子の人生に対する責任が伴います。不安も大きく、保護者も参ってしまいます。本校では、6年児童が卒業するにあたり、何度も保護者や本人と話しましたし、この子が今必要な力はなんなのか、日本語以外に、人とかかわるどんな力が必要なのか、覚えておくべき日本語はなんなのか、今後生き延びるために必要な学び方はなんなのか、強みにできる力はなんなのか。担任と中学校の先生方、教頭先生同士が話をしてくださいました。他校とも悩みを共有し相談しながら指導していました。学校を超えた協力体制が本当に必要です。中学に入る前と入ってすぐに進路の相談をすべきです。全てをがんばるのではなく、これとこれを特にがんばってというふうと焦点をしぼってあげるだけで楽になります。みんなと同じことをしようとがんばってしまう真面目な子は潰れてしまいます。

後半の情報交換では卒業後の中学校での様子が聞けて嬉しかったです。中学校では、日々たくさんの教師が関わるということは、子どもにとって、いろんな先生方に見守ってもらえるよさがあります。一方で、実態、学びなど情報共有、見通し、計画等、中心になる人がいないとバラバラになってしまいます。わからないことだらけですので定期的にケース会議をもって、担任の大変さを受け止めつつ、みんなで短期目標、長期目標をあれこれ相談していくことが今後ますます大切だと思います。外国人相談員の先生とも情報を共有し、さらに県や市のこのような研修で学んだことを管理職や他の先生方に teams や回覧で回して、共有していかなければならないと思います。

本校は現在、授業の中でどうやって日本語の目標を意識するかを課題にしています。ですが、ほかの支援の必要な子供たちも多く、全体指導の中で担任の先生方に多くを求めることは無理です。「ユニバーサルデザインの考え、学び合いを全校で共通理解し充実させる必要がある」と皆で話しています。

学校に委ねるだけ、先生方の工夫に委ねるだけでなく、体制づくり、人材派遣・確保を教育委員会やセンターにはぜひお願いします。

講師の先生の話や情報交換で、外国人児童の日常会話の力と学習で求められる力は違うのだと分かった。校内の体制づくりがとても大事だと感じた。

外国人生徒を受け入れる際に、気を付けなければならないことを教えて頂いた。

最後の意見交換では、外国人生徒を小学校で担当しておられた先生とお話することができ、とても有意義な時間となった。

外国人生徒について、班で困り事をディスカッションした上で、質問に対して、講師の先生にお答えいただく形でも、より有意義な時間を過ごすことができたと感じる。

今回研修を受けたことを各学校に持ち帰り、様々な先生方に広めていくことがとても重要であると感じました。今回は、有意義な時間をつくっていただきありがとうございました。